

前期（令和元年7月1日～令和3年6月30日）
富士宮市立図書館協議会委員による

図書館についての 「市民の声」集約による提言

図書館法では、図書館協議会は「図書館運営について館長の諮問に
応ずるとともに、図書館奉仕について館長に対し意見を述べる機関」
とされています。

自然災害や環境問題、DX推進のほか、現在世界的に流行している
新型コロナウイルス感染症などで、私たちを取り巻く社会や生活様式
は、今、大きく変化しています。

こうした社会の変化に合わせて、図書館も資料やサービスの在り方
などに変化が求められているのではないかという考えのもと、前期図
書館協議会委員の皆様から御提言をいただきました。

社会の変化に対応した新しい発想の図書館運営を考える一つの方法
として「市民の声」を集約し、それに基づきまとめていただきました。

富士宮市立図書館協議会からの御提言を市民の皆様にご紹介いたし
ます。

「市民の声（図書館アンケート）」まとめ

— これからの図書館の在り方 —

社会が情報化し、感染症や環境問題、自然災害など喫緊の課題の下で図書館にできること図書館がなすべきことなどにも大きな変化が考えられます。

私たち図書館協議会は市民の声を図書館運営に反映させ、民主的な運営を支える一翼を担っています。

そこで、委員各位の周囲の市民、所属団体のメンバー等多くの方々の意見、感想、イメージ、希望など様々な声をお寄せいただきたくお願いいたします。

今では、その可否はともかくカフェや書店併設の図書館、福祉機能を持った図書館も珍しくありません。社会の変化に対応した新しい発想の運営は今の図書館の姿に縛られないことが大切でしょう。様々な意見、発想、思いつき、期待などをたくさん集めたいと思います。

(市民の声収集について より)

こうした趣旨で前期の協議会委員のみなさんに市民の声を集めていただきました。(詳細別紙)。具体的な希望、要望については図書館でご検討いただき、改善の糧にさせていただきたいと思います。

今回の市民の声から今後の図書館像として描かれるものは

① **対話のある図書館**

② **開かれた図書館**

とまとめました。それはこれからの図書館を考える上で重要だと思われま

例えば「作品を見ながらの会話を推奨する美術展」などに見られるように、様々な分野でこれまでの常識を超えた新しい形態が模索されています。そこにある時代性は、「集合知」をいかに形成するかという流れでしょう。

集合知は、未来が見通せず正解のない時代にどうすべきかを決めるには、突出した知識を持つ専門家よりも多様性のある多くの素人の意見を集めた方が結果的に正解に近いというものです。

また、社会生活において求められるものは、かつては「スキル」「リテラシー」という、存在する正解を求める力でした。それが、「コンピテンシー」と呼ばれる、正解のない問いに対し「最適解」「納得解」を創り出す力が注目されるようになり、OECDの国際学力調査(PISA)などでも調査の対象にされています。

こうした力の養成に必要なものが「開かれた対話」です。

多様性を確保し、互いの違いを認めて一致点を見出す作業は、民主主義の基本でもあり、今後の社会形成にとって重要です。

市民の声が図らずもこうした方向性を持っていることに驚くとともに、ここにすでに「集合知」が表現されていると思いました。

これらを意識すると、例えば、高校生を中心にしたビブリオバトルの定期化や、映画鑑賞後の感想を語る集いなど新しい活動も見える気がします。

新県立図書館のイメージが一般募集された記事を見て、やはり「対話のある図書館」「開かれた図書館」に集約される意見が多く応募されているように思いました。

市民の声が今後の新しい図書館像の策定に参考になればと願います。

(文責 前期富士宮市立図書館協議会長 中澤 進)

市民の声 ①

◎図書館について（一般）

- ・「イオン」とか「富士宮、西富士宮駅」等へ併設の図書館分館を設置したらどうか。新しくできる地域交流センターへ、図書館分室の併設をお願いしたい。
- ・図書館で1日中、学習、研究するために、食事のできるスペースを増やしてほしい。（コロナ禍の中では難しいかな）
- ・歴史的に貴重なフィルムを収集し、映写会をやったらどうですか。
- ・コロナ禍の中で、児童図書が良く読まれるので、充実（質の高い本）をお願いします。

◎読書について

- ・読書は、過去にも未来にも行ける。
- ・読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨けるので、表現力が良くなる。
- ・小説（本）は、書き手と読み手との会話である。表向きは、作者が一方的に主張を押し付けてる形ですが、受け取り方は、読者に委ねられる。好き嫌いがあるし、作者と一冊きりの縁なのか、長く付き合いできるか、途中で飽きられて、疎遠になるか、読む側しだいで、面白い。人間関係に似ている。

◎本の読み聞かせについて

- ・読み聞かせを通し、子どもと一緒に学ぶ中で、大人の創造力も生き生きと蘇る。子どもが幸福に輝く時、大人の心も輝きます。そこに、読み聞かせの意義があると思います。
- ・読書は、子どもの笑顔を生み、その子どもの笑顔が、地域社会の未来を照らしてくれると思います。

◎市民の声（聞き取り）

- ・室内の照明が暗い、もっとルックスを明るくしてほしい。・・・本をさがすのに大変な時がある。図書館全体も暗い（節電かな）。本をさがしたり、読む所である。
- ・本棚にて、本をさがすのに荷物を置く場所がない。
- ・コロナ禍の中でしかたないけど、ソファ、椅子が少ないので、座るところがない。
- ・入口から階段へ、左側通行になってますが、階段も自然に左側通行なり、左手マヒの人もおり、急階段の手すりを右手で持つと右側通行となる。
- ・お客さんの転倒の場面に出会ったが、市民の方の対応が良かったですが、職員の方も、早めの対応をお願いしたい。

- ・点字図書は、点字が潰れてしまい、読みにくい本もあり、これからは、電子データが主となってくる。そこで、県点字図書館等の点字目録があると良いと思います。
- ・拡大器は良く利用されていると思われませんが、点字変換器、点字プリンターは利用されていますか、視覚障害者に知られていますか。
- ・窓口に、特技として（資格）、手話のできる人、点字のできる人がいれば、有り難いと思います。

- ・大富士交流センターを利用しますが、いろんな児童書の種類をそろえるより、「おもしろい本みつけた」のリストの本を複本で置いてほしいです。

富士宮市のおすすめの本をたくさんそろえてもらえると、借りたいときに貸出中で借りられないということがなくなると思います。

・富丘交流センターの児童スペースは三角の屋根が危ないように感じます。
また、テーブルも角がとがっていて子どもが利用するには危ないと思います。

・今後、交流センターなどの予定があるのなら、図書コーナーではなく、独立してスペースやおはなし室のようなスペースを作ってほしいです。
また、はやりの児童書は自分で購入する人も多いと思うので、「あまり手にとらないかもしれないけれどもいい本」をたくさんそろえてほしいです。

・公民館の本はどのくらい利用されているのでしょうか。
図書館の廃棄本を置いてあるだけなら、冊数は減ってもいいので、利用価値のある本を残して表紙を見せたディスプレイにするなどはどうでしょうか。

・図書館にある本はいい本だと思う人も多いので、これからも選書を頑張してほしいです。

・図書館で購入した新しい本の中でよいものだと図書館員が感じた本を年に1回でもいいから、紹介する講座を開いてほしいです。
新しい本の情報を知りたい市民やボランティアがたくさんいると思います。
絵本から児童書まで、あるいはYAのおすすめを教えてください。

私がイメージしたのは、一個人でも可能な図書館支援の仕組みです。例えば、神奈川県二宮町に図書館基金という制度があります。2009年にスタートし、10年以上の実績があるようです。

個人による寄付の制度として、ふるさと納税がありますが、この制度では自分の住む市町村には寄付ができません。そのため、仮に私が富士宮市立図書館へ、直接寄付しようとしても、いい方法が見当たらないという認識です（間違っていたらすみません）。



市民の声 ②

将来の市立図書館のあり方として、仮に2030～2040年の姿を思い浮かべ、考えてみました。

富士宮市は、20年後も、日本一の山＝富士山の南の玄関口であり続けることと思われま。現在のコロナ禍は10年後には終息し、感染症対策が行きわたり、ポストコロナ時代を迎えていると思われま。2021年に開始されたGIGAスクール構想の成果として、市内小中学生のタブレット1人1台化が定着し、その中の施策と連携して、市立図書館は重要な役割を担っていることと思われま。

一方で、2015年→2040年で富士宮市は人口20%減（「未来の地図帳」河合雅司著、講談社現代新書）と予測されており、さらに2040年には第2次ベビーブーム世代（S46～S49年生まれ）が65歳以上になることもあり、年齢別人口構成比は65歳以上が40%超になります（静岡県人口推計、静岡県HP）。市の同報無線でも、時々、高齢者の行方不明者のお知らせが流れてきますが、これは今後も増加する傾向と思われま。

そのため、「健康」への関心は高くなりました。

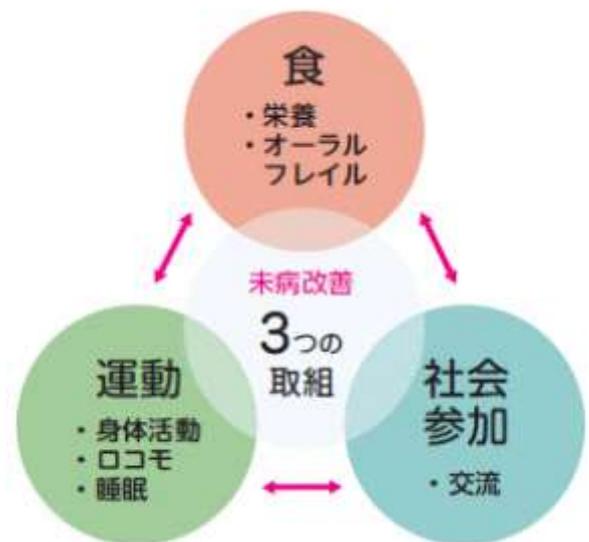
その観点では、「未病」というキーワードに興味を持っています。

これに関して、隣県である神奈川県のHPに「食」「運動」「社会参加」という3つの取組みが紹介されています。

http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cz6/me-byokaizen/index.html?pk_campaign=cnavi&pk_kwd=mebyo-sd

中央図書館の蔵書の中で、健康や病気に関する本は、配架場所も含め、充実しています。健康情報はインターネットでも触れることができますが、内容の信頼性が確保されていない情報も多いので、やはり本からの情報がいいと思います。

具体的な施策については、今後の活動に委ねますが、「健康」という観点も新しい切り口ではないかと思ひま。以上、雑駁ではありますが、一市民のご意見とさせていただきます。



市民の声 ③

集まりがあるのは午前 10 時前後のことが多いが、中央図書館のトイレ掃除によく遭遇します。できれば時間帯を考慮してほしいです。

アルコール消毒は必ずしていますが、検温をしなくても大丈夫でしょうか。※
(※ 令和 4 年 2 月から、各図書館に非接触型検温・消毒機を設置しました。)

本にラインが引かれていたり、食べかすが挟まっていることが、以前より多くなっているような気がします。

他市から来た方が、「常に返却ポストを使えるのは便利で良いね」と言っていました。

以前は駐車場の問題があって、中央図書館では 1 グループしか、会議室等を使えませんでした。少人数の集まりであれば、複数のグループに場所の提供ができないでしょうか。

本を探していたら、声をかけていただき、すぐに見つけることができました。

周辺の方には概ね評判がよく、利用しやすい、職員の方が親切だという意見でした。

利用している人、殆ど利用しない人の関心の差が大きく、問いかけても何も聞けない人もいます。

幼少期（ブックスタートなど）から始まる図書館との付き合い方をどうつなげ、広げていくか、教育の場での積極的な活用がより必要だと思います。

興味深いテーマを取り上げて素晴らしいコーナー作りをされているのに、なかなか外に伝わっていないようです。地元紙などを利用して広く PR することはできませんか。

新学期、各学校の読み聞かせボランティアのフォローをしていただけるとありがたいです。新メンバーで、本の集め方、探し方に不慣れな人もいます。

コロナ禍ではありますが、本をゆっくりと楽しむため座席をもう少し増やしてほしい。

地元に関する資料、作家、作品のコーナーを増やしてほしい。

できれば CD コーナーに音楽に詳しい方がいてくれると助かる。

夜間、本の返却に行く時、暗くて不安になる。明るいと安心できる。

駐車場から図書館に行くと、裏口から入っていくような感じ。入り口が狭くて難しいだろうが、図書館らしいあたたかな雰囲気があったらと思う。

本を借りる時にまごついていたら、本を整理している係の人が声を掛けてくれた。今までバーコードが見えなければ機械が反応しないと工夫して置いていたが「重ねても大丈夫」の声に目からうろこ。帰ってから友達にその話をすると「私も教えてもらった」とのこと。こんな時だからこそ、優しい一言がうれしかった。

図書館にはいろいろな案内が書いてあるが、高齢者になると見落としがち。「本は一冊ずつ返却します」も優しく一声かけてくれるとわかる。

図書館はおしゃべりをつつしみ静かにというイメージが強いが、のんびりお茶を飲みながら読書したり、お話ししたりする場があったらうれしい（コロナ禍が終わったら）

図書館事務のスペース、大切な場だが活用はいっぱいできそうな気が・・・。

